

私見創見 Thursday

彫刻科、工芸科、建築科、芸術学科、先端芸術表現科など専攻もさまざま。「絵は食べていけない。一握りの天才だけのものだ」といつの間

「美大(芸大)受験ってどんなにするの?」と聞かれることが少なくない。そもそも、美大は謎めいている。油画科、日本画科、デザイン

ーシが強く、進路の選択肢として入らないだろう。美大に行きたいと思っている高校生はほとんどは、保護者から反対されるという始末。実は東京大学よりも入るのが難しいと言われている東京芸術大学の油画科は日本一受験倍率が高い。私が受験した2000年の倍率は約40倍であり、約2千人が受験し、合格者はたった55名。4浪、5浪は当たり前前の時代であり、現役の高校生が受かる確率はとても低い。その割に、就職率が極端に低いというなんとも意味不明で理解し難いことが容易に想像できる。私は学部での合格はかなわず大学院での入学となった。入学時に学長から「何年かには一人、天才が抜ければいい。他

美大受験の謎



佐貫 巧

八戸学院大 短期大学部准教授

さぬき・たくみ 1982年、静岡県生まれ。多摩美大卒、東京芸大大学院修了。2013年から現職。14年より八戸圏域で現代芸術教室「アートイズ」を主宰し、アートを通して少しでも生きやすい世の中をつくる活動をしている。おいらせ町在住。

モノとの対話—自分との対話

の人はその天才の礎。ここはそういう大学なんです」と言われた。「一人の才能を開花させるために、その他の学生がいる」という具合だ。なん

とも、衝撃的なお祝辞であった。何倍もの倍率をくぐりぬけた。合格して意気揚々と臨んだ入学式での出来事である。「そんなに大変な思いをし

て、美大に入るメリットは「そもそも美大に行かなくても絵は描けるのでは」など謎は深まる一方だろう。私は子ども向けの造形ワークショップのほかにも美大受験対策の絵も教えている。美大受験には「受験絵画」という聞き慣れない言葉があり、とても特殊な技術が必要である。そのため、関東にある大手の美術予備校に行かないと受からないというところもしばしば。良い絵と受かる絵は別物で、志望校好みに合わせた傾向と対策を教えてくれる。 専攻によって多少異なるが、ライオンは必ず通る道だ。しまつていた「りんご」の良